

# 賀来飛霞略年譜

## 年号 西暦 年齢 事 項

文化13年	1816	豊後西国東郡高田村(現 豊後高田市)に生まれる
文化14年	1817	父有軒が死去(47才)。母の実家(杵築藩鈴木家)へ身を寄せる
文政4年	1821	日出藩の儒学者帆足万里の門に入る
文政12年	1829	13 杵築藩の十市石谷に絵を学ぶ
天保5年	1834	18 兄佐之(すけゆき)と上京し、山本亡洋に本草学を学ぶ
天保7年	1836	20 阿波に赴く(目的不明)
天保10年	1839	23 3月、瀬戸内海(琵琶湖)に旅行、その後10ヶ月間で尾張・伊勢・近江・播磨・浪花へ旅行。『遊湖日記』『遊尾漫録』を著す。
天保11年	1840	24 由布岳で採薬を行い『由布嶽彩葉記』『由布嶽彩葉図譜』を著す
天保12年	1841	25 8月~10月、日向に旅行(高千穂~串間)。『南海日記』を著す
天保13年	1842	26 1月~6月浪花・木曾・江戸、6月~8月日光・仙台・新潟・京へ旅行し、その間『木曾日記』『日光彩葉記』『瀬戸内海東遊日記』『東北紀行』『奥羽紀行』『日光紀行』『東北州紀行』『物産記聞』を著す。
天保14年	1843	27 5月まで京都で亡羊より本草学を学ぶ。9月~10月、島原藩の依頼で彩葉を行い、『島原彩葉記』を著す
弘化元年	1844	28 佐田村(現 安心院町)で医者を開業する
弘化2年	1845	29 3月~5月延岡藩の依頼で薬草調査を行い、『高千穂彩葉記』を著す。北遊(宇佐~國東半島の仏跡巡り)。帆足万里のつくった漢詩北遊雜詠15首の中から、「画棟 飛塹探霞」から号をとり「飛霞」と称す
弘化3年	1846	30 杵築藩の藩士、増田陳弘の娘、美須と結婚する
弘化4年	1847	31 島原藩より二人扶持を受ける
嘉永4年	1851	35 2月『救荒本草略説』全14巻が完成。そのほか『評湖漁考』を著す
嘉永5年	1852	36 杵築、國東で採薬し、『杵築採葉』を著す。帆足万里死去(74才)
安政4年	1857	41 兄佐之死去(59才)のため島原藩医となり、島原に赴任する
文久3年	1863	47 5月、妻の美須死去(35才)
元治元年	1864	48 5月、母が死去(77才)
慶応3年	1867	51 島原藩医師総領(八人扶持)となる
明治2年	1869	53 3月、健康上の理由で病といつて辞職(医師総領)
明治4年	1871	55 6月、宇佐郡島原管轄部の医長になる
明治9年	1876	60 小倉県第八大医務取締となる。また、宇佐郡公立四日市医学校長兼病院長となる。
明治11年	1878	62 伊藤圭介に招かれ、東京・小石川植物園の植物取扱となる
明治12年	1879	63 『植物雑記』『小石川植物園雜記私稿』『東遊雑記』『植物園暖室目録稿』を著す。また、小笠原島の植物調査を行い『小笠原島航海記聞草稿』を著す
明治13年	1880	64 帰郷するが、再び上京、小石川植物園植物取調方となる
明治14年	1881	65 『小石川植物園草木図説巻一』(伊藤圭介と共に著)完成する
明治15年	1882	66 東京で百科筋用植物の稿を起こす
明治19年	1886	70 小石川植物園植物取調方を辞職し、最後の紀行となる『上州黒龍山紀行』を著す
明治27年	1894	78 3月10日、佐田の自宅で感冒にて死去

## 幕末の博物学者 「賀来飛霞」展

### ごあいさつ

賀来飛霞は、文化十三年(1816)に島原藩の藩医、賀来有軒の三男として、現在の豊後高田市で生まれました。彼の一家は、代々 安心院町の佐田に住んでいた有力者の一族で、飛霞は佐田で医業に携わりながら博物学の研究を行い、後に幕末の三大本草家の一人と称されました。また、東洋・西洋両方の医術を学ぶなど、本草学・医学・画技とその才能は明治二十七年(1894)に78歳で亡くなるまで縦横に花開いたのです。

今回、宇佐市民図書館では、賀来飛霞関係資料の所有者である 賀来睦三郎氏より資料の借用及び展示について快くご承諾をいただき、このような『幕末の博物学者「賀来飛霞」展』を開催することができました。

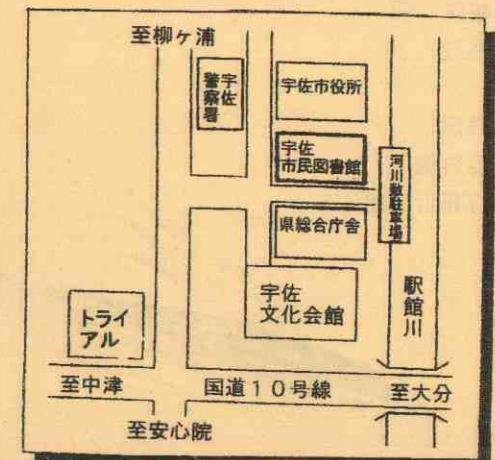
晩年、小石川植物園での研究成果をまとめて日本で初めての植物図鑑を刊行するなど、幕末から明治期にかけて近代植物学の基礎を築いた郷土の偉人は、私たちに学問への厳しさとたゆまぬ努力の大切さを教えてくれています。

平成19年5月19日

宇佐市民図書館／渡綱記念ギャラリー

協力：賀来睦三郎氏

大分県立歴史博物館



平成19年(2007)5月19日／編集・発行 宇佐市民図書館

大分県宇佐市大字上田 1017-1 TEL. 0978-33-4600

幕末の博物学者

## 「賀来飛霞」展

ka ku hi ka



賀来飛霞肖像(矢野又彦筆)

2007.5.19~7.1

10:00~18:00(日曜のみ~17:00)  
休館日=毎週月曜日・月末木曜日

宇佐市民図書館・渡綱記念ギャラリー

協力・賀来睦三郎氏  
大分県立歴史博物館

幕末の博物学者

かくひか  
賀來飛霞

郷土安心院（佐田）出身の賀来飛霞は、江戸末期から明治を代表する屈指の博物学者として知られています。

医師でもあった飛霞は、「本草学」——薬草や薬となる鉱物・動物などを調べる実用的な学問——に早くから強い関心を抱いていました。

飛霞は、京都の山本亡羊に本草学を学び、由布岳・求菩  
提山・島原・高千穂などの九州各地をはじめ、東北・関東  
にまで足をはこび、薬草の採集に務め、さまざまな記録・  
資料を残しています。また、薬草のような植物の調査だけ  
でなく、各地の産物や岩石・魚類・菌類など、現在の植物  
学の分野にわたる記録・資料もあります。これらの資料は  
克明な細密画ともいるべき図譜として残されています。後  
に、日本最初の理学博士となる伊藤圭介により、東京大学  
附属小石川植物園に招かれ、植物の研究を行っています。

飛霞の研究は、基礎的な部分に重きをおいたことにより、その名が広く知られることはありませんでした。しかし、その研究は現在の植物学の基礎を示したものとして、高く評価されています。

## 【 展示目錄 】

- |                                  |        |          |
|----------------------------------|--------|----------|
| 1. トビウオ                          | ※階段の壁  | 「魚蟹図稿」より |
| 2. シモクシダ                         | ※階段の壁  | 「草類図稿」より |
| 3. 杏花                            | ※階段の壁  | 「木類図稿」より |
| 4. シギ                            | ※階段の壁  | 「鳥類図稿」より |
| 5. ヤマバチ、ジガバチ、ハナアブ、蚊              | ※入口パネル | 「虫類図稿」より |
| 6. アジサイ (天保 11 年)                |        | 「木類図稿」より |
| 7. ハチクのタケノコ                      |        | 〃        |
| 8. ヤマモモ (天保 6 年)                 |        | 〃        |
| 9. カンボタン                         |        | 〃        |
| 10. シラクチ 〈サルナシ〉 (天保 11 年及び 12 年) |        | 〃        |
| 11. オオバガシ 〈ハピロガシ〉                |        | 〃        |
| 12. ニワトコ (天保 12 年)               |        | 〃        |
| 13. ミヤコグサ (天保 12 年)              |        | 「草類図稿」より |
| 14. タンポポ (弘化 4 年)                |        | 〃        |
| 15. シロギボウシ                       |        | 〃        |
| 16. ユキノシタ                        |        | 〃        |
| 17. ダイハンゲ 〈カラスピシャク〉              |        | 〃        |
| 18. ヒョウタンボク 〈キンギンボク〉 (天保 5 年)    |        | 〃        |
| 19. ヤナギソウ                        |        | 〃        |
| 20. ヤマアザミとリンドウ                   |        | 〃        |
| 21. ベニタケ、イグチ、キシメジ                |        | 「菌類図稿」より |
| 22. カラマツタケ                       |        | 〃        |

23. ホトトギス 「鳥類図稿」より

24. エトピリカ <オイランチョウ> //

25. ルリタテハ、チョウ、トンボ、ハンミョウ 「虫類図稿」より

26. キセルガイ、カタツムリ、ナメクジ //

27. マムシ //

28. タガエル <ミズガエル> //

29. イダ、アカムツ 「魚蟹図稿」より

30. メジカガレイ、メダカカレイ //

31. ムツゴロウ //

32. イセエビの下絵 //

33. カニ //

34. イイダコ //

35. ムラサキカイ (「大和本草」) //

※以上写真パネル

36. 薬研

37. 醫学啓蒙

38. 油布嶽採薬記

39. 油布嶽採薬図譜 乾

40. 油布嶽採薬図譜 坪

41. 別府大学紀要 (1995.1 別府大学会)

42. 書翰 (帆足万里から賀来飛霞に宛てた手紙) ※個人蔵

43. 賀来飛霞の足跡パネル

44. 水墨画「名花十友」 ※個人蔵

45. 嶋原採薬記

46. 日光紀行

47. 上州黒龍山紀行

48. 東北紀行

49. 中山道木曾日記

50. 日光採薬記 附図写真 完

51. 奥羽紀行

52. 小笠原嶋航海記聞草稿

53. 救荒本草略説 一

54. 救荒本草略説 二

55. 救荒本草略説 三

56. 救荒本草略説 四

57. 救荒本草略説 五

58. 採薬籠

59. 蘭山先生肖像

60. 賀来飛霞翁肖像

61. 軸「先考百花百虫稿本」

62. 木類図稿

63. 草類図稿

64. 菌類図稿

65. 鳥類図稿

66. 虫類図稿

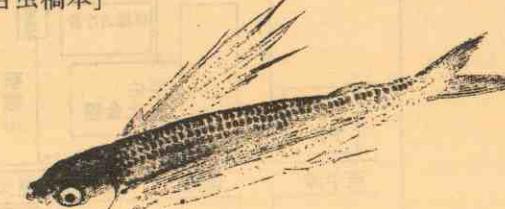
67. 魚蟹図稿

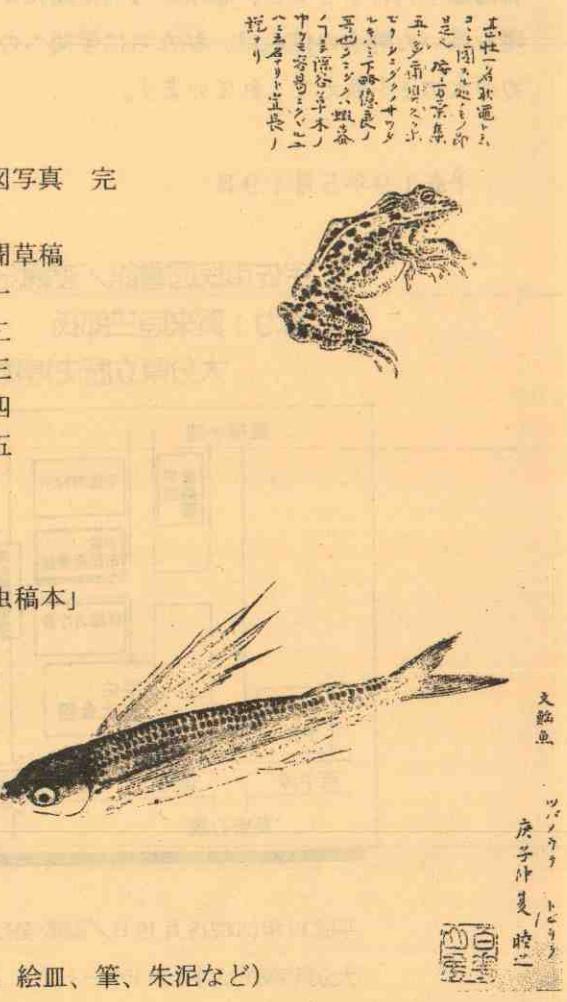
68. 筆3本

69. 刷毛2本

70. 筆巻

71. 絵具箱 (絵の具、絵皿、筆、朱泥など)



72. 本草学から植物学へ—飛霞の役割— (パネル)  
 73. 賀来飛霞を取り巻く人々 (パネル)  
 74. 本草学者と植物学者 (パネル)  
 75. 東遊備忘録 第一稿 83. 東遊備忘録 第八号  
 76. 東遊備忘録 第二稿 84. 東遊備忘録 第九号  
 77. 東遊備忘録 第三稿 85. 東遊備忘録 第拾号  
 78. 東遊備忘録 第四稿 86. 東遊備忘録 第拾壹号  
 79. 東遊備忘録 第五号 87. 東遊備忘録 第拾二号  
 80. 東遊備忘録 第六号 88. 東遊備忘録 第拾三号  
 81. 東遊備忘録 第七号  
 82. 植物園雜記私稿 再遊第一号  
 83. 植物園雜記私稿 第二号  
 84. 植物園雜記私稿 第三号  
 85. 植物園雜記私稿 第四号  
 86. 植物園雜記私稿 第五号  
 87. 植物園雜記私稿 第六号  
 88. 植物園雜記私稿 第七号  
 89. 植物園雜記私稿 第八号  
 90. 植物園雜記私稿 第九号  
 91. 植物園雜記私稿 第拾号

杏光  
弘化四年二月二十日  
寫於高尾山莊時之



100. 植物学会記聞 (一)  
 101. 植物学会 (植物諸説) 記聞 (二)  
 102. 植物学会記聞 (三)  
 103. 植物学会記聞 (四)  
 104. 植物学会記聞 (五)  
 105. 植物学会記聞 (六) ※以上固定展示ケースの中  
 106. 賀来家旧宅 (パネル写真)  
 107. 飛霞の墓 (パネル写真) ※以上鍵型パネル  
 108. 『國士』第9号 1989年3月  
 ※「賀来飛霞と伊藤圭介」ほか収録  
 109. 賀来飛霞『高千穂採薬記録』1997年 (鉱脈社)  
 ※澤 武人「高千穂採薬記の周辺」併録  
 110. 澤 武人『高千穂採薬記の周辺』1987年 (北斗会)  
 ※賀来飛霞『高千穂採薬記録』1997年 (鉱脈社) の原本  
 111. 賀来飛霞著 奥羽紀行『名勝真景並奇器図』1949年  
 (大分県郷土文化研究会) 非売品  
 112. 『賀来飛霞印譜』1982年 (賀来飛霞遺稿集刊行会)  
 113. 『賀来飛霞関係資料調査報告書』1986年  
 114. 『賀来飛霞関係資料調査報告書II』1996年  
 (安心院町教育委員会)  
 115. 郷土の先覚者シリーズ第8集『賀来飛霞・大井憲太郎』  
 1986年 (大分県先覚者シリーズ刊行会)  
 116. 『幕末の本草学者 賀来飛霞展』パンフレット  
 1999年 (第13回国民文化祭 安心院実行委員会)  
 117. 『賀来飛霞遺稿集一』1976年 (賀来飛霞遺稿集刊行会)  
 118. 荒金正憲『豊の国大分の植物誌』2003年 (荒金正憲発行)  
 119. 荒金正憲『豊の国大分の植物誌増補』2006年 (荒金正憲発行)  
 120. 『ボタニカルアートの世界』1987年 (朝日新聞社編・発行)

※以上移動展示ケースの中、書籍等



挿図は「幕末の本草学者 賀来飛霞展」図録（第13回国民文化祭 安心院町実行委員会）より転写